

6. 公共健康医学専攻

- I 公共健康医学専攻の教育目的と特徴 ・ 6 - 2
- II 「教育の水準」の分析・判定 ・ ・ ・ ・ 6 - 4
 - 分析項目 I 教育活動の状況 ・ ・ ・ ・ 6 - 4
 - 分析項目 II 教育成果の状況 ・ ・ ・ ・ 6 - 16
- III 「質の向上度」の分析 ・ ・ ・ ・ ・ 6 - 19

I 公共健康医学専攻の教育目的と特徴

(公共健康医学専攻の教育の目的)

本専攻は、2007 年度に専門職学位課程（専門職大学院）として設置された。国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質 (quality of life) の改善において、指導的な役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的として教育を行う。これは、医学系研究科の教育研究上の目的、生命現象のしくみの解明、疾病の克服及び健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することの一翼を担うものである。(資料 6-1、6-2)

資料 6-1：東京大学大学院医学系研究科規則（抜粋）

(教育研究上の目的)

第 1 条の 2 本研究科は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。

2 各専攻の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に定める。

資料 6-2：公共健康医学専攻の教育研究上の目的

本専攻は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質 (quality of life) の改善に寄与する最先端研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人を養成する。

以上は東京大学の第 2 期中期目標の教育に関する目標の、総合研究大学として、大学院課程を通じ、未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富み国際的に活躍できる研究者、高度専門職業人等、社会の先頭に立つ人材を育成することの一翼を担うものであり、国際性と開拓者精神を持った、各分野の指導的人材の養成、すなわち、世界的な視野を持った知的指導者の養成の一環でもある。

(公共健康医学専攻の特徴)

本専攻では、標準修了年限 2 年のコースと標準修了年限 1 年のコースを設け、学部における最新の知識を得たばかりの経験は少ないが柔軟な思考をもった若い世代と、現場に必要な理論や最先端の技術を具体的に認識している実務経験者とが、同じ場で教育を受けることにより、双方の相乗作用及び実践に根ざした新たな知と経験を生み出す環境を作り出している。一定の実務経験を有する者が対象となる標準修業年限 1 年で修了できるコースでは、医学系研究科の中に設置された特徴を活かし、医療現場での喫緊の課題である EBM:evidence-based medicine (根拠に基づく医療) や医療安全などについて実践及び指導のできる専門家を養成する。標準修業年限 2 年のコースでは、幅広い公衆衛生学の専門知識や技能を身に付けることにより、保健系シンクタンク・NGO や行政、企業等において住民や国民、労働者の健康の維持・増進に関わる専門家を養成する。

[想定する関係者とその期待]

- 最も直接的な関係者は、公衆衛生の専門的な知識・技能を身につけ、公衆衛生分野の高度専門職業人として活躍したいと希望する保健医療系の実務者及び学生である。彼らからは、既存の修士課程では身につけることのできない最先端かつ広範な公衆衛生領域の教育を期待されている。
- 医療機関や医療産業等からは、EBM、医療安全及び医療経営に必要な情報管理・分析について実践と指導のできる専門家の養成が期待されている。
- 行政機関や一般の企業等からは、地域住民や労働者を対象にした禁煙指導やメタボリック症候群対策など健康増進活動において指導的役割を發揮できる専門家の養成が期待されている。
- 保健系シンクタンクや NGO 等からは、集団の健康状態の把握や客観性の高い政策評価やプロジェクト立案を行える専門性の高いアナリストの養成が期待されている。
- 医療系教育機関等からは、公衆衛生学についての高度な研究の遂行や専門職等を教育する教育研究者の養成が期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

○基本的組織の編成

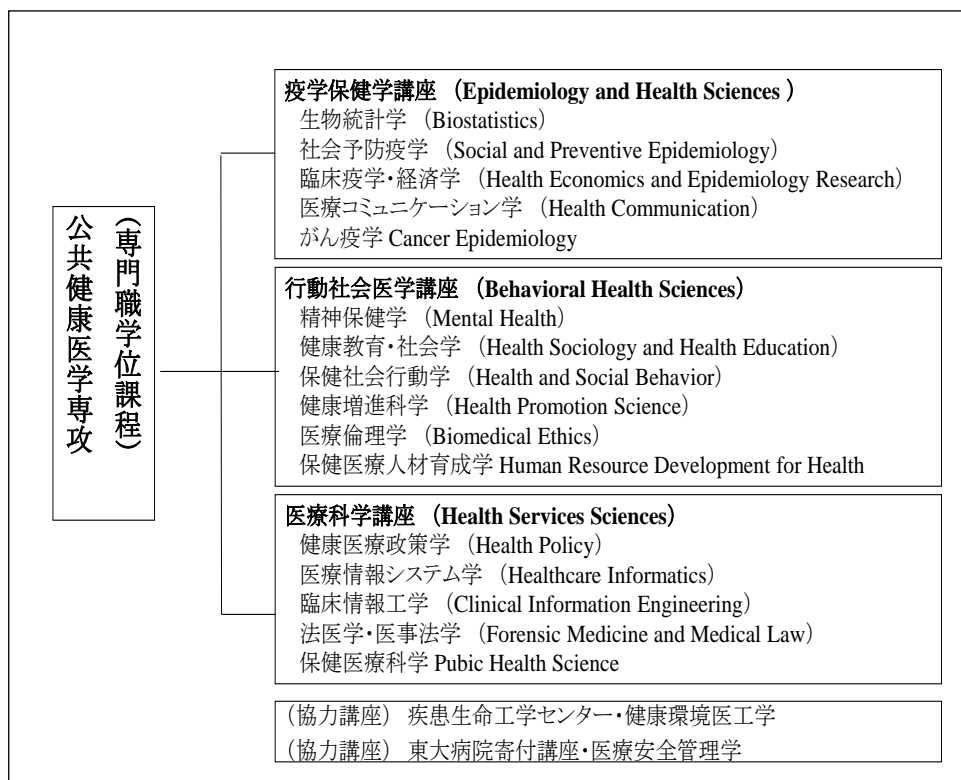
本専攻の志願倍率は高く、学生定員の充足率は、適正な状況にある(資料6-3)。

資料6-3：学生定員充足状況

2010年度				2011年度				2012年度				2013年度				2014年度				2015年度			
入学定員	志願倍率	入学者数	充足率	入学定員	志願倍率	入学者数	充足率	入学定員	志願倍率	入学者数	充足率	入学定員	志願倍率	入学者数	充足率	入学定員	志願倍率	入学者数	充足率	入学定員	志願倍率	入学者数	充足率
30	3.10	28	0.93	30	2.77	31	1.03	30	2.80	30	1.00	30	3.43	32	1.07	30	3.40	30	1.00	30	3.03	29	0.97

これに対し、疫学保健学(5分野)、行動社会医学(6分野)、医療科学(5分野)の3つの大講座を設置している。また、医学系研究科附属疾患生命工学センター、医学系研究科寄付講座医療安全管理学とも連携しており、専攻内にとどまらない教育体制を構築している(資料6-4)。

資料6-4：専攻組織図



2015年5月時点の専任教員数は22名(教授11、准教授7、講師1、助教3)である。上記の教員中には、専任(兼担)教員2名(教授1、准教授2)を含み、かつ、本専攻では、教育の目的と理念に基づき、実務家教員を積極的に活用するため、5名の実務家教員(教授5)を配置している。具体的には、社会予防疫学、医療コミュニケーション学、医療倫理学、医療情報システム学、臨床情報工学、法医学・医事法学に関わる分野であり、当該分野において長年の実務経験ある者を配置している(資料6-5)。

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

資料 6-5 : 教育課程等の概要

教育課程等の概要									
(医学系研究科公共健康医学専攻)									
科目区分	授業科目の名称	単位数		授業形態			専任教員等の配置		
		必修	選択	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師
疫学保健学系科目	疫学研究と実践[必修*1]	2		○			1		
	予防保健の実践と評価		2	○			1		
	医学データの統計解析	2		○			1		
	医学統計学演習		2		○			1	
	医学研究のデザイン[必修*1]	2		○			1		
	臨床疫学		2	○			1		
	臨床疫学・経済学演習		2		○		1		
	保健医療経済学		2	○			1		
	医療コミュニケーション学		2	○			1	1	
	医療コミュニケーション学演習		2		○		1	1	
	医療技術評価学演習		1		○		1		
	医療経営学演習		2		○		1		
	臨床医学概論		1	○			1		
	医学研究と CDISC 標準		1	○			1	1	
小計(14 科目)	6	19	-			4	2		
行動社会医学系科目	精神保健学 I [必修*2]	2		○			1	1	
	精神保健学 II		2	○			1	1	
	健康教育学[必修*2]	2		○			1		
	健康社会学		2	○			1		
	健康増進科学		2	○				1	
	医療倫理学 I [必修*3]	2		○			1	1	
	医療倫理学 II		2	○			1	1	
	社会と健康 I [必修*3]	2		○				1	
	社会と健康 II		2	○				1	
	産業保健の理論と実践		2	○			1		
	保健医療人材育成学		2	○			1(1)		2(2)
	学習者評価学		2	○			1(1)		2(2)
小計(12 科目)	8	16	-			4(1)	4	2(2)	
医療科学系科目	健康医療政策学[必修*4]	2		○			1	1	
	医療情報システム学[必修*4]	2		○			1		
	医療情報システム学実習		1			○	1		
	法医学・医事法学[必修*3]	2		○			1		1
	法医学・医事法学演習		2		○		1		1
	医療安全管理学		1	○			1(1)		
	医療安全管理学実習		0.5			○	1(1)		
	健康危機管理学		1	○			1		
	保健行政・健康危機管理学実習		2			○	1		
	環境健康医学	1		○				1(1)	
	公共健康情報学		2	○			1		
公共健康情報学実習		1			○	1			
小計(12 科目)	7	10.5	-			5(1)	2(1)	1	
共通科目	インターンシップ		2			○	1		
	公共健康医学特論		2	○			10	6(1)	
	課題研究	6			○		14(3)	8(1)	1
小計(3 科目)	6	4	-			14(3)	8(1)	1	
合計(41 科目)		27	49.5	-			14(3)	8(1)	1

※ ()内は兼任教員等を示し、内数である。また、網掛けされた課題は専任教員が担当している。

教員一人あたりの学生数は約 6 名程度を維持しており、優秀な学生を選抜し、また学生に対し丁寧な指導が可能な環境となっている。

○教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

毎月、専攻会議（専任教授で構成）および教員連絡会議（講師以上の専任教員で構成）を組織し、教育内容及び教育方法の検討や改善を行っている。学生が回答した授業評価ア

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

ンケートについては、これら2つの会議において結果が回覧され、実際に「授業・実習に積極的に参加できた」という旨の回答が少なかった点を加味し、2013年度より学生参加型の授業回数を増やすと行った改善が行われている。

本専攻の授業科目については、各授業が行われる学期終了時に、履修した学生に授業に関するアンケート調査を実施し、その集計結果は教員連絡会議で討議し、教員にフィードバックし、授業方法、内容の改善（成績評価基準の見直し、参加型教授法の取り入れ）につなげている。

また、本専攻全教員を対象にしたFDを毎年実施し、授業方法、内容の改善（課題研究の評価基準の見直し、参加型教授法の取り入れ）等につなげている（資料6－6）。

資料6－6：FD実施状況

2015年度	
日時	2016年3月7日(月)13時～14時半
内容	ソウル大学保健大学院における研究教育活動
講師	ソウル国立大学公衆衛生大学院 山本尚理講師
参加人数	15名
成果	東京大学とソウル国立大学との連携強化の一環として、ソウル国立大学公衆衛生大学院の教育研究活動について学んだ。その結果、本専攻における教育手法の改善の参考になる情報を得ることができた。公衆衛生大学院における環境保健学の授業科目のあり方について理解を深めることができた。ソウル国立大学との教育の相互連携の可能性について意見交換することができた。
2014年度	
日時	2015年3月9日(月)13時～14時半
内容	公共政策大学院における教育の理念と手法
講師	東京大学公共政策大学院 城山英明院長
参加人数	13名
成果	公共政策大学院のコース設計、特に英語コース設置の経緯、日本人学生と外国人学生との比率の変化、カリキュラムのコアとなっている事例研究の運用方法について多くの質疑がなされた。公共健康医学専攻の授業科目の一部を公共政策大学院の事例研究方法を学び改善することが提案された。
2013年度	
日時	2014年3月12日(水)14時～15時半
内容	帝京大学大学院公衆衛生学研究科の現状と発展
講師	帝京大学大学院公衆衛生学研究科 矢野榮二教授・初代研究科長
参加人数	15名
成果	帝京大学大学院公衆衛生学研究科の教育方針・内容、また同研究科の博士課程設置にあたっての考え方などを、公衆衛生大学院の国際動向を踏まえながら学び、本専攻の今後の発展の方向性について意見交換することができた。
2012年度	
日時	2013年3月12日(火)13時～14時半
内容	ケース(事例教材)作成とケースを用いた双方向性授業の進め方について
講師	国際基督教大学 毛利勝彦教授
参加人数	12名
成果	ケースを用いた双方向性の授業の企画、実施について具体的な方法論を学ぶことができ、「公共健康情報学」の授業科目においてケーススタディを活用した講義内容と双方向性の講義形式を取り入れ、学生が積極的に参加できる授業を実施することができるようになった。
2011年度	
日時	2012年3月28日(水)15時～16時半
内容	東日本大震災後の大学の地域貢献
講師	東北大学大学院医学系研究科 辻一郎教授
参加人数	14名
成果	東日本大震災後の公衆衛生に対する高等教育機関の役割について、東北大学の活動、今後の方向性を具体的に学ぶことができ、公衆衛生大学院の地域への貢献のあり方について理解を深めることができた。
2010年度	
日時	2011年3月22日(火)13時～14時半
内容	専門職教育に係わる教育理論
講師	東京大学医学教育国際協力研究センター 錦織宏講師
参加人数	11名
成果	専門職の教育における教育理論について授業の企画、評価方法を含めて具体的に学ぶことにより、専攻の教育内容をレベルアップすることができるようになった。

本専攻では修了者の進路状況および授業方法、内容に関する意見を専門職学位課程修了時に調査している。専攻の目的に合致した高度専門職業人等の育成状況を確認し、また修了

者の意見も基づき、必要があれば授業方法、内容の改善につなげる体制をとっている。例えば修了者調査の結果に基づき、2013 年度からはプレゼンテーション講習会を毎年開催し、必要な能力の補強を図っている。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

カリキュラムについて、専攻の目的に沿った授業を設けつつ、社会・学生のニーズを取り入れ、改善できる体制が整っており高い水準が保たれている。

併せて、専攻会議、教員連絡会議を定期的に開催し、授業方法、内容の継続的評価と改善の場として機能させている。授業アンケート、修了生調査、ファカルティ・ディベロップメントの成果を評価方法や教授方法の改善に取り込むなど、教育内容及び教育方法の改善に向けた取組を着実に実施している。これらから、法令面の基準を満たし、カリキュラム設計、組織作りにおいて、教育の質を担保できる体制が整備されていると判断できる。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

「東京大学大学院医学系研究科の教育目的」に基づき、2014 年度に、各課程の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を明文化した（資料 6－7）。

資料 6－7：公共健康医学専攻の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

<学位授与方針>

公共健康医学専攻専門職大学院では、①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をするため、教育課程の編成・実施方針に沿った所定の単位を取得した学生に公衆衛生学修士（専門職）の学位を授与する。

<教育課程の編成・実施方針>

公共健康医学専攻専門職大学院では①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をする。公共健康医学専攻（専門職修士）課程では、上記目的を達成するために以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- カリキュラムは、疫学・数量分析を対象にした科目群、保健医療領域の行動科学・社会科学に関連した科目群、保健医療及び臨床現場に関わる政策・マネジメントを対象にした科目群により構成され、公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードに相当する科目は必修とする。
- 1 年制課程については選抜の要件として実務経験や職業倫理性を考慮し、2 年制課程については、指導教員のもとで「課題研究」に取り組むことで、公衆衛生の実践活動や研究活動に直接接する機会等を得て、国民や地域住民の健康維持・増進に関わる専門家としての自覚を養う。
- 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムを構成する。
- 公衆衛生の今日的課題の性質を鑑み、グローバルな視野を育むテーマを取り上げる。

○教育課程の編成

すべての教育プログラム・カリキュラムは、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に準拠して構築され、人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れたパブリックヘルス・マインドをもった高度専門職業人を養成している。

本専攻における教育課程は、①疫学・数量分析を対象にした科目群、②保健医療領域の行動科学・社会科学に関連した科目群、③保健医療及び臨床現場に関わる政策・評価・マネジ

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

メントを対象にした科目群の、大きな3つの教育科目群により構成され、さらに国際的な公衆衛生専門教育のスタンダードに即して「環境健康医学」を加えている。このように本専攻では、専門職大学院設置基準第6条に定める、公衆衛生の専門職大学院にふさわしい授業科目が開設されている。

本専攻では、公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードとなっている5つの基礎知識領域（疫学、生物統計学、社会科学・行動科学的方法論、医療管理学、環境保健学）について必修科目を配している（資料6-8、6-9）。

資料6-8：必修授業科目・分野対応表

必修5分野名		授 業 科 目	必修 5分野対応
①	生物統計学	医学データの統計解析	①
②	疫学	疫学研究と実践	②
③	社会科学・行動科学的方法論	医学研究のデザイン	②
④	医療管理学	精神保健学 I	③
⑤	環境保健学	健康教育学	③
		医療倫理学 I	③
		社会と健康 I	③
		法医学・医事法学	③
		健康医療政策学	④
		医療情報システム学	④
		環境健康医学	⑤

資料6-9：必修科目と修了要件

1. 修了要件					
コ ー ス		1年コース	2年コース		
標準修業年限		1 年	2 年		
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上			
修了要件	必 修	①A：2科目+B：4科目の計6科目11単位を履修			
		A：必須2科目			
		科目番号	科目名	単位	
		41518113	医学データの統計解析	2	
		41518322	環境健康医学	1	
		B：下記の4つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計4科目(各分類1科目以上、計4科目以上履修可)			
		分類	科目番号	科目名	単位
		1	41518111	疫学研究と実践	2
			41518115	医学研究のデザイン	2
		2	41518211	精神保健学 I	2
	41518213	健康教育学	2		
	41518218	医療倫理学 I	2		
3	41518220	社会と健康 I	2		
	41518316	法医学・医事法学	2		
4	41518311	健康医療政策学	2		
	41518312	医療情報システム学	2		
		—	② 課題研究（6単位） （2年次に履修申請すること）		
	選択科目	①選択科目（1年コースの課題研究は選択科目扱い） ②他専攻・他研究科（特に公共政策大学院）科目（8単位まで）			

注意事項：同一年度中に50単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目はS1タームの単位として算入されます。（ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、A1タームの履修単位として算入されます。）

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

これら必修科目と、各人の専門性に応じて履修する選択科目から授業科目は構成され、シラバスに履修モデルを掲載し、学生が系統的・段階的に履修できるよう配慮している（資料 6-13, P. 6-11）。授業計画の作成においても基本的な内容、発展的な内容、実践的な内容、事例研究等を取扱う科目が順序よく学べるよう留意している。特に 1 年コースに関しては、1 年間で所定の単位取得ができるよう、夏季休業期間中に集中的な授業を開講し（資料 6-10）、学生の履修負担にも配慮している。さらに、実習、課題研究などで実践活動や研究活動に直に接する機会などを通して、国民や地域住民の健康維持・増進に関わる専門家としての自覚を養成する。

○学生や社会からの要請への対応

従来からの公衆衛生学の諸分野に加えて、「臨床疫学」、「保健医療経済学」、「医療コミュニケーション学」、「医学研究と CDISC 標準」、「産業保健の理論と実践」、「医療安全管理学」、「健康危機管理学」、「社会と健康 I・II」、「医療技術評価学」、「学習者評価学」、「臨床医学概論」、「医療経営学」など、社会のニーズを踏まえ公衆衛生の諸課題に対応できる教育内容を継続的に拡充し、社会や入学を希望する学生からの要請に応えられるようにしている（資料 6-5, P. 6-5）。例えば、「社会と健康 I・II」は健康の社会的格差という新しい公衆衛生学への社会的要請に対応するものであり、専攻の教員が中心となった科学研究費助成事業新学術領域研究（研究領域提案型）の研究成果をもとに 2013 年度に開講され、このための教科書の執筆も新たに行われている。「臨床医学概論」は医学的なバックグラウンドを持たない文系学部出身学生からの医学的知識へのニーズを踏まえて 2014 年度に開講され、最新の医学知識をコンパクトに学習できる場として学生から好評を得ている。「医療技術評価学」、「学習者評価学」は保健・医療分野の人材育成、資格認定や学習内容の修得と関連する学習者評価に関する理論や方法論を学ぶものであり、公衆衛生学の新しいニーズに対応してそれぞれ 2012 度、2015 年度に開講されたものである。

○授業形態の組合せと学習指導法の工夫

本専攻の授業は、公衆衛生領域の専門職に必須の必修科目と、各人の専門性に応じて履修する選択科目から構成される。また講義だけでなく演習科目、実習科目等で教員の研究・実践活動に直に接し、国民や地域住民の健康維持・増進に関わる専門家としての自覚を養成する。それぞれの科目数（単位数）は、講義科目 24（計 45 単位）、演習科目 6（計 16 単位）、実習科目 6（計 10.5 単位）である。

資料 6-10：公共健康医学専攻・授業年間予定表，2015 年度）

S1	S2	夏季休業	A1	A2	W
4/1～6/4	6/5～7/31	8/1～8/31	9/1～10/31	11/1～12/21	1/1～3/2
健康危機管理学 公共健康医学特論 保健医療人材育成学 医療コミュニケーション学 保健医療経済学 医療安全管理学 臨床医学概論 医学データの統計解析 医療倫理学 I 医療情報システム学	医学研究のデザイン 臨床疫学 医療コミュニケーション学 演習 医療情報システム学実習 医学統計学演習 医療倫理学 II 公共健康情報学	(集中講義) 予防保健の実践と評価	インターシップ、課題研究など (集中講義) 保健行政・健康危機管理学実習 医療安全管理学実習	環境健康医学 産業保健の理論と実践 医学研究と CDISC 標準 社会と健康 I 学習者評価学 健康増進科学 健康社会学 公共健康情報学実習	医療技術評価学演習 健康教育学 社会と健康 II
法医学・医事法学 精神保健学 I 疫学研究と実践				健康医療政策学 精神保健学 II 臨床疫学・経済学演習	

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

標準修了年限2年コースの学生については、「課題研究」を必須としている。課題研究では特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。また、理論と実践とを結びつけるために、夏季休業期間（あるいは春季休業期間）に公衆衛生実務を体験するためのインターンシップの機会を設けている（資料6-11）。インターンシップでは国内外の公的組織・民間企業・NPOなどで実践を学ぶことを推奨している。本専攻では、実践的な内容を学生が修得するため、学生の自主性に任せたインターンシップのみではなく、授業科目として「インターンシップ」を配置している。

資料6-11：インターンシップ、実習の受入施設(2014年度)

種別	機関名	人数
民間	キャンサースキャン	3
民間	三菱総研	2
行政	国立保健医療科学院	1
行政	大阪府	1

医学系研究科においては、修士課程又は専門職学位課程2年次を対象としたTA（ティーチング・アシスタント）制度を設けており、2012年度以降は安定して7名以上を採用しており、2014年度は9名が専門職学位課程の授業準備や授業補助といった業務を行った（資料6-12）

資料6-12：TA（ティーチング・アシスタント）採用状況

年度	採用人数
2011年度	5
2012年度	7
2013年度	7
2014年度	9

学習指導の観点においては、学生が学習計画や授業履修について不安のないように配慮している。本専攻のシラバスには、修了要件や履修上の注意事項、各授業科目の授業目的や授業計画及び内容、参考図書、成績評価方法等を記載しており、また本専攻ではこの内容について入学時に説明を行っている。更に、シラバスには将来の進路に応じて、どのような科目を履修したらよいかの目安を示すため、「公衆衛生行政・管理」、「保健アナリスト・コーディネーター」、「臨床疫学・アウトカム評価」、「医療情報・臨床工学」の4種類の履修モデルを提示し、学生の授業科目の選択を助けている（資料6-13）。

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

資料6-13:履修モデル
「公衆衛生行政・管理」

		S1 (4/1~6/4)	S2 (6/5~7/31)	夏季休業 (8/1~8/31)	A1 (9/1~10/31)	A2 (11/1~12/31)	W (1/1~3/31)	
曜日	授業 期間	4/6~6/4	6/5~7/31	8/1~8/31	9/10~10/30	11/2~12/28	1/4~3/2	
	時限	9W	8W	4W	8W	8W	8W	
月	1	8:30 10:15	41518320- 健康危機管理学(1)					1
	2	10:25 12:10				41518322- 環境健康医学(1)**		2
	3	13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3					3
	4	14:55 16:40	41518412- 公共健康医学特論 (2)					4
	5	16:50 18:35					41518311-健康医療政策学(2)*4	5
	6	18:45 20:30						6
火	1	8:30 10:15	41518223- 保健医療人材育成学 (2)			41518224- 学習者評価学(2)		1
	2	10:25 12:10						2
	3	13:00 14:45	41518120- 医療コミュニケーション学(2)	41518115- 医学研究のデザイン (2)*1		41518217- 健康増進科学(2)		3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35	41518211-精神保健学 I (2)*2				41518212-精神保健学 II (2)	5
	6	18:45 20:30						6
水	1	8:30 10:15	41518118- 保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫 学(2)		41518222- 産業保健の理論と 実践(2)		1
	2	10:25 12:10						2
	3	13:00 14:45	41518318- 医療安全管理学(1)	41518122- 医療コミュニケーション学 演習(2)	下記特記事項参照	インターンシップ、課 題研究など	41518127-医学研 究とCDISC標準(1)	3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35						5
	6	18:45 20:30						6
木	1	8:30 10:15		41518313- 医療情報システム学実 習(1)		41518220- 社会と健康 I (2)*3	41518124-医療技 術評価学演習(1)	1
	2	10:25 12:10	41518126- 臨床医学概論(1)					2
	3	13:00 14:45	41518113-医学デー タの統計解析(2)**	41518114-医学統 計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)		3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35	41518218- 医療倫理学 I (2)*3	41518219- 医療倫理学 II (2)				5
	6	18:45 20:30						6
金	1	8:30 10:15				41518214- 健康社会学(2)	41518213- 健康教育学(2)*2	1
	2	10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1					2
	3	13:00 14:45	41518312- 医療情報システム学 (2)*4	41518323- 公共健康情報学(2)		41518324- 公共健康情報学実 習(1)	41518221- 社会と健康 II (2)	3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35						5
	6	18:45 20:30						6
夏季	8月	2週目	41518112-予防保健の実践と評価(8/3~7)(2)					
A 1	9月	1週目	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(8/31~9/11予定)(2)					
		5週目	41518319-医療安全管理学実習(9/28~29)(0.5)					

** 必修科目
*1~4 選択必修科目

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

「保健アナリスト・コーディネーター」

		S1 (4/1~6/4)	S2 (6/5~7/31)	夏季休業 (8/1~8/31)	A1 (9/1~10/31)	A2 (11/1~12/31)	W (1/1~3/31)	
曜日	授業 期間	4/6~6/4	6/5~7/31	8/1~8/31	9/10~10/30	11/2~12/28	1/4~3/2	
	時限	9W	8W	4W	8W	8W	8W	
月	1	8:30 10:15	41518320- 健康危機管理学(1)					1
	2	10:25 12:10				41518322- 環境健康医学(1)**		2
	3	13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3					3
	4	14:55 16:40	41518412- 公共健康医学特論 (2)					4
	5	16:50 18:35					41518311-健康医療政策学(2)*4	5
	6	18:45 20:30						6
火	1	8:30 10:15	41518223- 保健医療人材育成学 (2)			41518224- 学習者評価学(2)		1
	2	10:25 12:10						2
	3	13:00 14:45	41518120- 医療コミュニケーション学(2)	41518115- 医学研究のデザイン (2)*1		41518217- 健康増進科学(2)		3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35	41518211-精神保健学 I (2)*2			41518212-精神保健学 II (2)		5
	6	18:45 20:30						6
水	1	8:30 10:15	41518118- 保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫 学(2)		41518222- 産業保健の理論と 実践(2)		1
	2	10:25 12:10						2
	3	13:00 14:45	41518318- 医療安全管理学(1)	41518122- 医療コミュニケーション学 演習(2)	下記特記事項参照	インターンシップ、課 題研究など	41518127-医学研 究とCDISC標準(1)	3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35						5
	6	18:45 20:30						6
木	1	8:30 10:15		41518313- 医療情報システム学実 習(1)		41518220- 社会と健康 I (2)*3	41518124-医療技 術評価学演習(1)	1
	2	10:25 12:10	41518126- 臨床医学概論(1)					2
	3	13:00 14:45	41518113-医学デー タの統計解析(2)**	41518114-医学統 計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)		3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35	41518218- 医療倫理学 I (2)*3	41518219- 医療倫理学 II (2)				5
	6	18:45 20:30						6
金	1	8:30 10:15				41518214- 健康社会学(2)	41518213- 健康教育学(2)*2	1
	2	10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1					2
	3	13:00 14:45	41518312- 医療情報システム学 (2)*4	41518323- 公共健康情報学(2)		41518324- 公共健康情報学実 習(1)	41518221- 社会と健康 II (2)	3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35						5
	6	18:45 20:30						6
夏 季	8月	2週目	41518112-予防保健の実践と評価(8/3~7)(2)					
A 1	9月	1週目	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(8/31~9/11予定)(2)					
		5週目	41518319-医療安全管理学実習(9/28~29)(0.5)					

** 必修科目

*1~4 選択必修科目

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

「臨床疫学・アウトカム評価」

		S1 (4/1~6/4)	S2 (6/5~7/31)	夏季休業 (8/1~8/31)	A1 (9/1~10/31)	A2 (11/1~12/31)	W (1/1~3/31)	
曜日	授業 期間	4/6~6/4	6/5~7/31	8/1~8/31	9/10~10/30	11/2~12/28	1/4~3/2	
	時限	9W	8W	4W	8W	8W	8W	
月	1	8:30 10:15	41518320- 健康危機管理学(1)					1
	2	10:25 12:10				41518322- 環境健康医学(1)**		2
	3	13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3					3
	4	14:55 16:40	41518412- 公共健康医学特論 (2)					4
	5	16:50 18:35					41518311-健康医療政策学(2)*4	5
	6	18:45 20:30						6
火	1	8:30 10:15	41518223- 保健医療人材育成学 (2)			41518224- 学習者評価学(2)		1
	2	10:25 12:10						2
	3	13:00 14:45	41518120- 医療コミュニケーション学(2)	41518115- 医学研究のデザイン (2)*1		41518217- 健康増進科学(2)		3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35	41518211-精神保健学 I (2)*2			41518212-精神保健学 II (2)		5
	6	18:45 20:30						6
水	1	8:30 10:15	41518118- 保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫 学(2)		41518222- 産業保健の理論と 実践(2)		1
	2	10:25 12:10						2
	3	13:00 14:45	41518318- 医療安全管理学(1)	41518122- 医療コミュニケーション学 演習(2)	下記特記事項参照	41518127-医学研 究とCDISC標準(1)		3
	4	14:55 16:40			インターンシップ、課 題研究など			4
	5	16:50 18:35						5
	6	18:45 20:30						6
木	1	8:30 10:15		41518313- 医療情報システム学実 習(1)		41518220- 社会と健康 I (2)*3		1
	2	10:25 12:10	41518126- 臨床医学概論(1)			41518124-医療技 術評価学演習(1)		2
	3	13:00 14:45	41518113-医学デー タの統計解析(2)**	41518114-医学統 計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)		3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35	41518218- 医療倫理学 I (2)*3	41518219- 医療倫理学 II (2)				5
	6	18:45 20:30						6
金	1	8:30 10:15				41518214- 健康社会学(2)	41518213- 健康教育学(2)*2	1
	2	10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1					2
	3	13:00 14:45	41518312- 医療情報システム学 (2)*4	41518323- 公共健康情報学(2)		41518324- 公共健康情報学実 習(1)	41518221- 社会と健康 II (2)	3
	4	14:55 16:40						4
	5	16:50 18:35						5
	6	18:45 20:30						6
夏季	8月	2週目	41518112-予防保健の実践と評価(8/3~7)(2)					
A1	9月	1週目	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(8/31~9/11予定)(2)					
		5週目	41518319-医療安全管理学実習(9/28~29)(0.5)					

** 必修科目
*1~4 選択必修科目

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 分析項目 I

「医療情報・臨床工学」

		S1 (4/1~6/4)	S2 (6/5~7/31)	夏季休業 (8/1~8/31)	A1 (9/1~10/31)	A2 (11/1~12/31)	W (1/1~3/31)		
曜日	授業 期間	4/6~6/4	6/5~7/31	8/1~8/31	9/10~10/30	11/2~12/28	1/4~3/2		
	時限	9W	8W	4W	8W	8W	8W		
月	1	8:30 10:15	41518320- 健康危機管理学(1)					1	
	2	10:25 12:10				41518322- 環境健康医学(1)**		2	
	3	13:00 14:45	41518316-法医学・医事法学(2)*3					3	
	4	14:55 16:40	41518412- 公共健康医学特論 (2)					4	
	5	16:50 18:35				41518311-健康医療政策学(2)*4		5	
	6	18:45 20:30						6	
火	1	8:30 10:15	41518223- 保健医療人材育成学 (2)			41518224- 学習者評価学(2)		1	
	2	10:25 12:10						2	
	3	13:00 14:45	41518120- 医療コミュニケーション学(2)	41518115- 医学研究のデザイン (2)*1		41518217- 健康増進科学(2)		3	
	4	14:55 16:40						4	
	5	16:50 18:35	41518211-精神保健学 I (2)*2			41518212-精神保健学 II (2)		5	
	6	18:45 20:30						6	
水	1	8:30 10:15	41518118- 保健医療経済学(2)	41518116-臨床疫 学(2)	下記特記事項参照 インターンシップ、課 題研究など	41518222- 産業保健の理論と 実践(2)		1	
	2	10:25 12:10							2
	3	13:00 14:45	41518318- 医療安全管理学(1)	41518122- 医療コミュニケーション学 演習(2)		41518127-医学研 究とCDISC標準(1)			3
	4	14:55 16:40							4
	5	16:50 18:35							5
	6	18:45 20:30							6
木	1	8:30 10:15		41518313- 医療情報システム学実 習(1)		41518220- 社会と健康 I (2)*3	41518124-医療技 術評価学演習(1)	1	
	2	10:25 12:10	41518126- 臨床医学概論(1)					2	
	3	13:00 14:45	41518113-医学デー タの統計解析(2)**	41518114-医学統 計学演習(2)		41518117-臨床疫学・経済学演習(2)		3	
	4	14:55 16:40						4	
	5	16:50 18:35	41518218- 医療倫理学 I (2)*3	41518219- 医療倫理学 II (2)				5	
	6	18:45 20:30						6	
金	1	8:30 10:15				41518214- 健康社会学(2)	41518213- 健康教育学(2)*2	1	
	2	10:25 12:10	41518111-疫学研究と実践(2)*1					2	
	3	13:00 14:45	41518312- 医療情報システム学 (2)*4	41518323- 公共健康情報学(2)		41518324- 公共健康情報学実 習(1)	41518221- 社会と健康 II (2)	3	
	4	14:55 16:40						4	
	5	16:50 18:35						5	
	6	18:45 20:30						6	
夏 季	8月	2週目	41518112-予防保健の実践と評価(8/3~7/2)						
A 1	9月	1週目	41518321-保健行政・健康危機管理学実習(8/31~9/11予定)(2)						
		5週目	41518319-医療安全管理学実習(9/28~29)(0.5)						

** 必修科目
*1~4 選択必修科目

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本専攻は、医学系研究科専門職学位課程教育課程の編成・実施方針（資料6－7；P. 6－7）に基づき、国際的な公衆衛生専門教育のスタンダードに即し、体系的な教育課程を提供しているとともに、学生のニーズや社会の要請に対応して授業内容の改善を行っている。教育方法についても、本専攻の教育目的にある「実践的役割を果たす高度専門職業人」という人材像に対して、インターンシップの機会を設ける等といった取組のもと合致していると判断できる。また自主的な学習のためのスペースが確保（学生控室：座席数30）され、学生が主体的に学習できる環境が作られており、授業内容、実施形態、環境作りの面において、基準を上回る内容を実施していると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

本専攻では、学生に対して、本専攻で身に付いた知識・技能・能力などの教育効果を測る目的で修了時アンケート調査を実施している。例年、「今後のキャリアにあたって基礎となる手段・技術・能力」、「公衆衛生学全般に関する幅広い基礎知識」、「新しいことを積極的に学ぶ力」、「仲間と一緒に勉強したり研究したりする協調性」などの項目で高い評価を得ている(資料6-14)。また8割を超える学生が、もう一度入学前の状態に戻った場合、本専攻を第1希望で志望すると回答している。これは、学生が学業の成果を実感しており、専攻の教育内容に満足しているという1つの指標である。

資料6-14：公共健康医学専攻修了時アンケート結果(2015年度)

設問	度数				回答数	比率				平均値	
	向上した (学んだ)	まあ向上 した (学んだ)	あまり向 上しな かった (学ばな かった)	向上しな かった (学ばな かった)		向上した (学んだ)	まあ向上 した (学んだ)	あまり向 上しな かった (学ばな かった)	向上しな かった (学ばな かった)		回答数
	4	3	2	1		4	3	2	1		
1 世界の採算端を行く研究を自分で進めることができる専門的研究能力	9	7	2		18	50%	39%	11%	0%	100%	3.39
2 今後の自分のキャリアにあたって基礎となる手段・技術・能力	13	5			18	72%	28%	0%	0%	100%	3.72
3 最先端の研究の進展についてゆける高度な専門的知識	6	11	1		18	33%	61%	6%	0%	100%	3.28
4 公衆衛生学全般に関する幅広い基礎知識	8	9	1		18	44%	50%	6%	0%	100%	3.39
5 実際の場面で役に立つ、実用的な知識やスキル	8	9	1		18	44%	50%	6%	0%	100%	3.39
6 新しいものを産み出す創造力や企画力	5	7	5		17	29%	41%	29%	0%	100%	3.00
7 問題の本質を見極め、問題を解決する能力	7	9	1		17	41%	53%	6%	0%	100%	3.35
8 周辺分野も含む幅広い関連領域への興味	12	5	1		18	67%	28%	6%	0%	100%	3.61
9 新しいことを積極的に学ぶ力	9	7	2		18	50%	39%	11%	0%	100%	3.39
10 仲間と一緒に勉強したり研究したりする協調性	7	9	2		18	39%	50%	11%	0%	100%	3.28
11 プレゼンテーション能力や他人に分かりやすく伝える力	4	10	4		18	22%	56%	22%	0%	100%	3.00
12 自分自身の未来に対するビジョン	7	11			18	39%	61%	0%	0%	100%	3.39

併せて、在学生による授業評価アンケートについても年間2回、前半・後半で実施されており、ほぼ全ての授業科目で総括評価(5点満点)の平均点は4点以上であり、授業内容が学生にとって満足できる水準にあることが伺える(別添資料6-1：授業アンケート結果(2014年度))。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

修了時アンケートにおける学生の到達度、満足度から、本専攻の教育がその教育目標と合致した成果をあげていることがわかる。またそれぞれのアンケート結果を教育内容・方法の改善につなげる仕組みが良好に機能していることから、学生の学業の成果を向上させる環境があると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

○修了後の進路の状況

2007 から 2014 年度までに 215 名に対して公衆衛生学修士（専門職）を授与した。進路を把握できた 1 年コースの学生 78 名、2 年コースの学生 137 名のうち、医療機関に 29%、行政・独法・国連機関に 10%、NGO・シンクタンク・企業に 16%、大学・研究所（教員・研究者として）14%、さらに 31%が社会医学・健康科学・看護学専攻等の大学院（博士課程）に進学していた（出典：2016 年度入試ガイダンス（大学院入学希望者向け説明会）資料）。就職先不明、あるいは未定の者は 1 年度あたり 1 名程度である。

○キャリア開拓・支援の取組

2 年コースの学生は、課題研究の指導教員から修了後の進路に合わせた学修指導を受ける態勢になっている。1 年コースの学生についても、特定の指導教員のもとで研究室配属を行うことが多くなっており、同様に指導教員から進路について指導を受けることが増えている。これ以外の 1 年コース学生については、本人の希望に応じて、専攻長が進路の相談を受ける態勢としている。

2012 年度からは毎年、「キャリアデザイン懇談会」を開催しており、修了生、修了生の就職先の担当者と学生との交流の場を設けると共に、学生向けの就職説明会の場としている。

○修了者、就職先からの評価

2015 年実施の全修了生アンケートでは、本専攻で修得した能力・技術・資質への高い満足度がうかがえる（資料 6-15）。

資料 6-15：公共健康医学専攻修了生アンケート（2015 年結果）

	修了生アンケート(n=69)			
	必要度 %(A)	修得度 %(B)	ギャップ (A-B)	ギャップ 順位
論理的なコミュニケーション能力	98.6	76.8	21.8	5
論文・企画書・報告書の論理的執筆能力	98.6	85.5	13.1	9
プレゼンテーション能力	94.2	65.2	29	3.5
異なる分野の職種・研究者とのコミュニケーション能力	92.7	73.9	18.8	7
英語・ほか外国語によるコミュニケーション能力	72.4	29	43.4	2
数値データの解釈・分析能力	85.5	89.9	-4.4	16
情報の検索・選択・意思決定への応用能力	94.2	78.2	16	8
課題解決に向けた行動力	95.6	66.6	29	3.5
多様性に対する寛容性・理解力	88.4	68.1	20.3	6
多面的に問題を捉える視点の広さ	94.2	82.6	11.6	10.5
リーダーシップ能力	79.7	36.2	43.5	1
健康・保健・医療・公衆衛生の世界的動向に対する視野・関心	85.5	86.9	-1.4	13
健康・保健・医療・公衆衛生の国内動向に対する視野・関心	92.7	81.1	11.6	12
人の健康と社会との関わりに対する関心	82.6	86.9	-4.3	15
公共の福祉・福利に対する貢献的姿勢	79.7	68.1	11.6	10.5
専門的知識(疫学・統計学)	85.5	94.2	-8.7	18
専門的知識(行動科学・精神保健・健康増進・公衆衛生倫理)	75.4	88.4	-13	19
専門的知識(医療保健政策・医療情報学)	75.4	82.6	-7.2	17
専門的知識(環境医学・医療安全学)	56.5	60.8	-4.3	14

2015 年度には就職先アンケートを実施し、修了生の就職先上司 11 名が回答し、能力・技術・資質の修得率を高く評価した。（資料 6-16）。また「本専攻の出身者は、医薬品、医療機器業界では重宝される」、「様々な分野で周囲をリードしていける優秀な人材を今後とも育成して欲しい」といった趣旨のコメントも得ている。

資料6-16：就職先アンケート（2015年結果）

	就職先アンケート(n=11)			
	必要度 %(A)	修得度 %(B)	ギャップ (A-B)	ギャップ 順位
論理的なコミュニケーション能力	100	90.9	9.1	14
論文・企画書・報告書の論理的執筆能力	100	72.7	27.3	6
プレゼンテーション能力	81.9	54.6	27.3	4.5
異なる分野の職種・研究者とのコミュニケーション能力	90.9	45.5	45.4	1
英語・ほか外国語によるコミュニケーション能力	81.9	63.7	18.2	9
数値データの解釈・分析能力	90.9	90.9	0	18
情報の検索・選択・意思決定への応用能力	100	90.9	9.1	14
課題解決に向けた行動力	100	72.8	27.2	7
多様性に対する寛容性・理解力	100	63.7	36.3	2.5
多面的に問題を捉える視点の広さ	100	63.7	36.3	2.5
リーダーシップ能力	81.9	54.6	27.3	4.5
健康・保健・医療・公衆衛生の世界的動向に対する視野・関心	90.9	72.8	18.1	10
健康・保健・医療・公衆衛生の国内動向に対する視野・関心	90.9	81.9	9	16.5
人の健康と社会との関わりに対する関心	91	81.9	9.1	14
公共の福祉・福利に対する貢献的姿勢	90.9	81.9	9	16.5
専門的知識(疫学・統計学)	81.9	72.7	9.2	11.5
専門的知識(行動科学・精神保健・健康増進・公衆衛生倫理)	63.7	72.7	-9.2	19
専門的知識(医療保健政策・医療情報学)	63.7	54.5	9.2	11.5
専門的知識(環境医学・医療安全学)	72.8	54.5	18.3	8

これらアンケートの結果は、教育課程の改善につなげている。修了生の就職先に対するアンケート調査で、基礎知識領域については本専攻修了生の知識・技術・能力は満足できる水準に達していたが、リーダーシップ能力、異なる分野の職種・研究者とのコミュニケーション能力など、基礎知識領域の修得を踏まえた総合的な能力の涵養について課題がみられたことから、今後コンピテンシーの定義・教育方法の検討と教育課程への反映を計画している。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本専攻では、毎年度修了生がおおむね順調に就職、進学している。医療機関、行政・独立行政法人・国連機関、NGO・シンクタンク・企業など、当初想定されていた分野に継続して進むとともに、教員・研究者として大学・研究所に勤務したり、大学院（博士課程）に進学したりするものも3～4割を示すなど、公衆衛生の教育研究の将来を担う人材としても活躍していた。また、学生がより社会で求められる知識、スキルを修得できるよう専攻として取り組んでおり、これらの結果は関係者の期待に十分に答えていると判断できる。修了者の就職先のアンケート調査結果からは、修了生が意図した能力・技術・資質を修得し、それぞれの進路で活躍していると判断できる。本専攻では、第1期中期目標期間中より更に社会の声や学生のニーズを反映しやすい体制となっていると考える。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

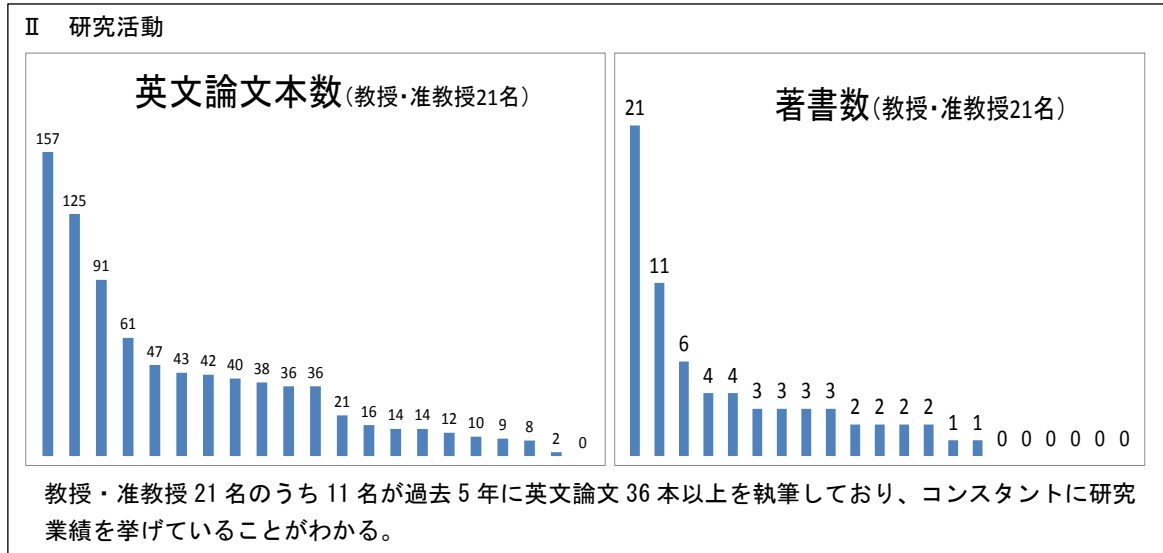
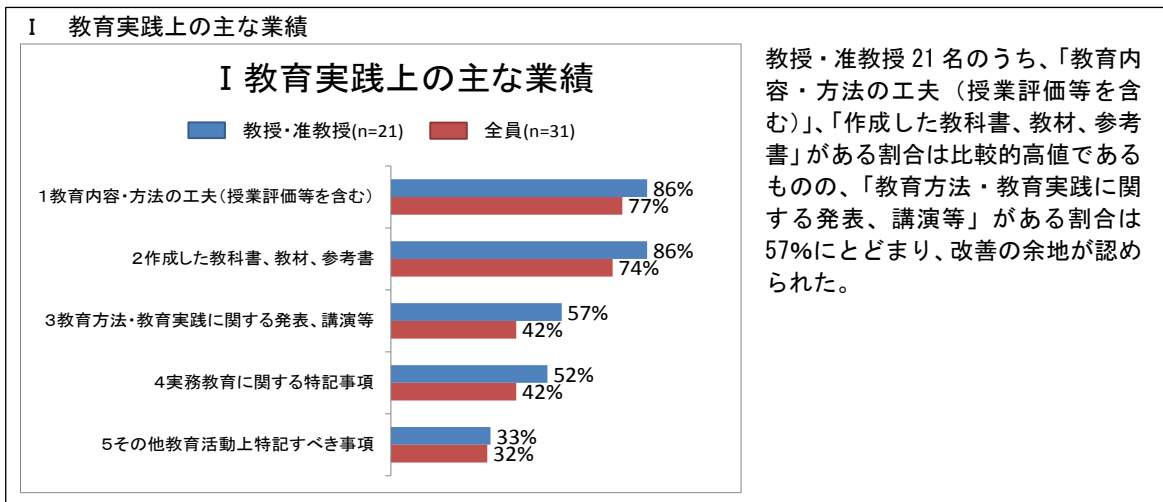
(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

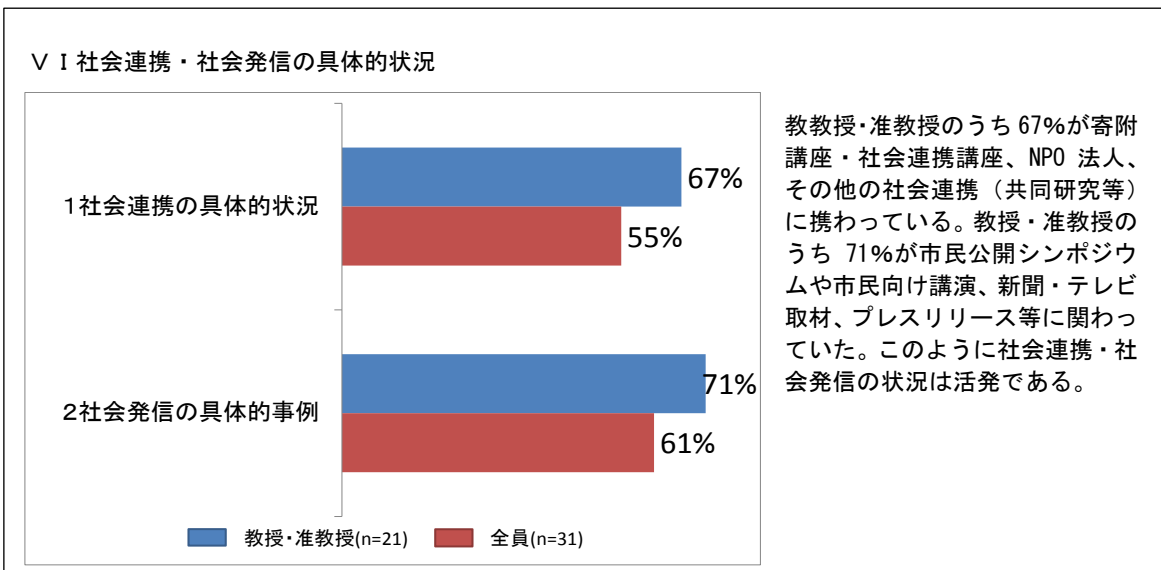
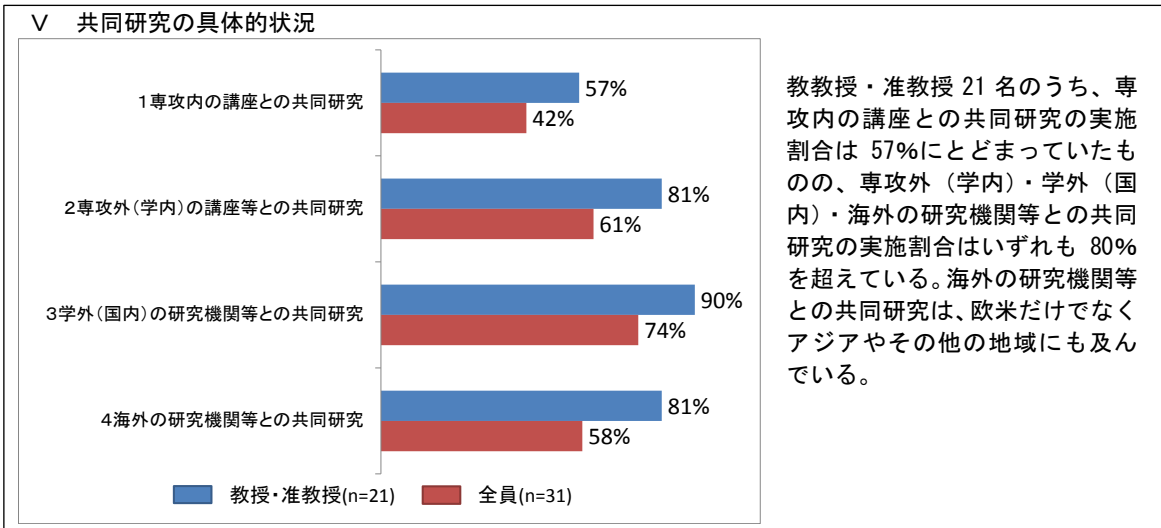
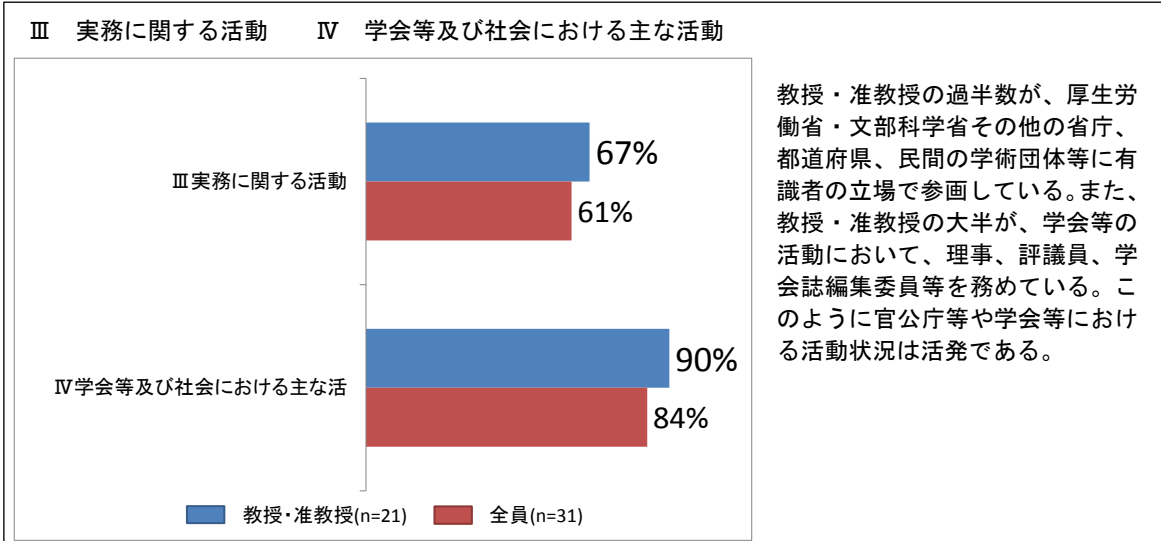
2014年度には国際共同研究の状況について自己点検評価を、2015年度には共同研究・社会連携の実施状況の自己点検評価を実施した。

2014年度の評価においては、本専攻の教員が実施している国際共同研究のテーマ、相手国、相手機関、開始時期、終了時期についてアンケート調査を行った。結果として、8分野において合計25件の国際共同研究が実施されていた。相手国は12カ国であり、米国、カナダ、メキシコ、英国、オランダ、ドイツ、スウェーデン、オーストラリア、中国、台湾、韓国、タイが含まれていた(別添資料6-2:東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻2014年度テーマ別自己点検評価「国際連携調査」実施結果)。広範囲にわたって、積極的に国際共同研究が推進されていると評価できる。今後、さらなる国際化の強化に向けて、国際的リーダーとなり得る人材養成にも力を入れる。

2015年度の評価においては、専攻の教員(特に教授、准教授)は研究成果の国際的な公表、学会および社会における活動、専攻外(学内)・学外(国内)・海外の研究機関等との共同研究、社会連携・社会発信の状況は満足できるものであると考えられる。今後、教育方法・教育実践に関する成果の発表、専攻内の共同研究について専攻としてさらに推進する(資料6-17)。

資料6-17:東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻2015年度テーマ別自己点検評価「共同研究・社会連携の実施状況」実施結果





東京大学医学系研究科公共健康医学専攻

2014年度より、全ての科目においてシラバスに評価指標を明示するよう徹底しており、さらに、成績評価については、成績区分(A+、A、B、C、Fの5段階)について、「A+の割合を受講者総数のおおむね10%」と定めていたが、2014年度よりこの基準を廃止するなど、本専攻では、ニーズと実態に沿った成績評価方法を議論し、実行している。

教員の教育能力の向上のため、全教員を対象にしたFDを実施している。2013年度は、公衆衛生大学院の博士課程の在り方について討議し、将来構想WGの活動に反映した。また、2014年度は、公共政策大学院における教育の手法、今後の方向性について学び、その事例研究方法を取り入れることを検討するとともに、専攻の国際化について情報収集を行った。このことは、本学が行う海外有力大学との「戦略的パートナーシップ」構築（文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業）への申請にも寄与している。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

毎年開催するキャリアデザイン懇談会における修了生および就職先からの意見聴取では、本専攻で身につけた疫学や統計解析能力、マーケティングやコミュニケーションなどの知識・技術および専攻在学中に形成した人的ネットワークが現在の仕事に役だっていることが報告された。

2015年に実施した就職先アンケートであげた19の能力・技術・資質のうち11について、就職先の上司により70%以上の修了生が専攻で修得した回答されていた。公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードである疫学・統計学、行動科学・精神保健・健康増進・公衆衛生倫理、医療保健政策・医療情報学の専門知識については、仕事での必要度と修得度の間のかい離も小さかった。修了生はそれぞれの就職先で、専攻で学んだ能力・技術・資質を踏まえて成果をあげている（資料6-18：特筆すべき修了生の就職先での成果）。

この様に修了生及び就職先、延いては社会から評価されていることは、本専攻の教育の質が向上していることを示すと考える。

資料6-18：特筆すべき修了生の就職先での成果

修了生 (コース、出身)	
A氏（2年コース、健康科学系学部出身）	世界保健機構（World Health Organization）ジュネーブ本部に勤務。世界規模で保健プロジェクトを進める中で国際的な討議の場で必要となる公正な視点や判断基準の持ち方に専攻で学んだ知識を活かしている。
B氏（1年コース、医師）	医系技官として厚生労働省入省。老健局総務課 課長補佐などを経て、現職は総務省消防庁救急企画室救急専門官。 日経メディカル、2013年7月号特集◎臨床を離れるという選択 Vol.4 患者の意識問題、病院運営の課題…改善求めマス相手の行政に飛び込む 政府インターネットテレビ「徳光&木佐の知りたいニッポン！～救急車が足りない！命を救う救急車 適正利用のススメ」（2013/09/06）に出演
C氏（2年コース、健康科学系学部出身）	医学博士課程に進学。医学博士を取得した後に、帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座・助教に着任。医学生の公衆衛生学教育に従事し活躍。
D氏（2年コース、文系学部出身者）	インターンを経て公益財団法人日本医療機能評価機構に就職。現在、産科医療補償制度運営部。生物統計学、医療政策学などをもとに医療システムに関する調査分析に従事、活躍。